

## UFOの到着



デンマーク・ヘルシンガー市在住

小野寺 綾子

ちょっと話は古くなりますが、昨年10月から今年1月末までオーフス市のアロス美術館で日本人の現代美術作家の森万里子展がありました。

森万里子は村上隆、森村泰昌などと並んで日本を代表する現代美術家の一人です。ニューヨークを活動の拠点としていることや、海外で作品発表や展覧会が圧倒的に多いので、残念ながら日本での知名度は高くありません。森万里子の名前を聞いたこともなく、作品を見たこともない方が多いです。もしご存知ならよほど現代美術に造詣の深い人です。

森万里子は親しくしている恩師のお嬢さんで、10月上旬にあった展覧会のオープニングに招待されました。夕方から行われたオープニングセレモニーでは、展覧会の名誉総裁であるフレデリック皇太子を迎え、市長、岡田日本大使やデンマーク、イギリス、イタリア、ニューヨーク、日本から画廊関係者、友人などたくさんのゲストが来ました。

今回の展覧会で、この10年間の作品が展示されました。現代美術の作品はどれも似たような作品が多い中、森万里子は異色な存在です。作品では、自分の日本文化のルーツを探るように、仏教や神道など宗教的なものを題材にして、森万里子自身が菩薩や巫女にふんじています。その作品はオリジナ

UFOの前に立つ森万里子と美術館の学芸員▶

オープニングでスピーチする森万里子▼森万里子さんと筆者(右)▲



ルのコピーではなく、コンピューターグラフィックなど最新のテクノロジーを駆使した作品で、非常に日本的、東洋的で、宗教性が強いです。過去にデンマークやスウェーデンの美術館で、森万里子の作品を何度も見る機会がありました。日本人は森万里子の宗教的な作品を見て、少し困惑するかも知れませんが、外国人には東洋的で宗教の神秘性もあり、日本人以上に理解しやすいかもしれません。

最近の作品は、縄文時代の環状石列シリーズや古代ケルトの石列にインスピレーションを得た作品で、古代の石にまつわる宗教世界に関心が移っています。

展覧会の最大の呼び物は2003年の作品で、乳白色に輝くWave UFOです。オープニングの席で「オーフス市によくUFOの到着がした」とオーフス市長は自慢

しました。これは、大きなカプセルで毎回3人が頭に左右の脳波を測定する器具をつけてUFOに入り、中で10分ほどコンピューターグラフィックを見る体験です。このカプセルはイタリアのフィアット社製作で、IT、脳波専門家、音楽、技術者などたくさんの人がかかわった作品です。今はウクライナの大金持ちが、このUFOを所有しています。名誉総裁のフレデリック皇太子も、森万里子の案内で館内の作品を見た後、脳波を測定する器具をつけて、UFOに入りました。

夜8時から始まった晩餐会は、とても和やか雰囲気でした。食事の途中で武満徹のピアノ曲が演奏され、結局食事が終わったのは深夜1時近くでしたが、皇太子は最後まで会に同席して終始たいへんご機嫌でした。